システム構築のための調整力向上講座（第9回）

必要な情報を必要な人に展開すればスムーズに進行

2016.06.08

今回は、調整力を発揮する対象であるステークホルダーとの付き合い方のまとめです。第7回に、ステークホルダーと共通認識を確立し、維持するためには、

(1)ステークホルダーをモレなく特定する
(2)影響のある情報をモレなく展開する
(3)意思決定のプロセスを共有する

の3つが必要だと述べました。ステークホルダーの特定と分析ができたら、今度は「必要な情報を、知らせるべき人と共有する」必要があります。プロジェクトリーダーと窓口の顧客とだけで決めてしまい、情報を展開しなかったり、逆に誰かれかまわず「全員に知らせておけばいいだろう」と区別なく全員に情報を配信していると、重要なステークホルダーに必要な情報が届かなくなってしまいます。

それぞれのステークホルダーがプロジェクトのどの要素に、どのような影響を与えるのかを分析するのに役に立つのが、これから説明する「ステークホルダーマトリクス」です（下図）。

	プロジェクト要素														
	リソース（資源）			要件					プロセス				パフォーマンス評価		
	人	施設・設備	金	目標	仕様	スケジュール	施設・設備	品質	ソフト開発	インフラ構築	業務プロセス改善	問題解決	プロジェクト進捗	フェーズ移行判定	プロジェクトの成功
経営者			●										○		●
プロジェクトオーナー			●	●	○	○	●	●	○		○	●	●	○	●
プロジェクトリーダー		●	●	●	○		●	●	●	●	●	●	●	○	●
チームメンバー				●					●	●		○	●		
業務部門Aマネジャー	●	●			○	●		○			●	●			
業務部門Aメンバー					○	○					○				
業務部門Bマネジャー	●	●			○	●		○			●	●			
業務部門Bメンバー					○	○					○				

●意思決定プロセスに参加する　○意思決定の結果を知らせる
鹿島出版会『プロジェクトマネジメント・ツールボックス』を参考に作成

ステークホルダーマトリクスの作成の仕方… 続きを読む